

語彙リストの暗記のみの語彙学習からの 転換を促す語彙の問題作成

—初中級レベルの総合クラスでの実践報告—

三好 裕子

要旨

初級で一般的な語彙学習の方法は、語彙リストにある日本語の語と訳語を1対1対応で覚えるというものである。語彙をこの方法のみで学習することには多くの問題があるが、現状では語彙の学習方法は学習者任せで、指導がほとんど行われていないため、中級以降もこの学習方法を続ける学習者が少なくない。そこで、初級から中級へと移行するレベルの総合クラスにおいて、教科書の新出語の理解を図るとともに、語彙リストの暗記のみの学習方法からの転換を促すことを狙いとした語彙の問題「ことばの使い方の問題」を作成し、授業でその指導を行った。

キーワード：語彙の学習方法、語彙の問題、初中級、気づき、総合クラス

1. はじめに

1-1. 背景

言語によるコミュニケーションにおける語彙知識の重要性は言うまでもないが、外国語教育において語彙は覚えるしかないものとされ、学習者の努力に任されることが多い。初級での語彙学習の方法として一般的なのは、学習している語の語形とその訳語の対を覚える方法である。実際、早稲田大学日本語教育研究センターの初級クラスである総合日本語1、2でも、語彙のクイズは教科書の解説書にある語彙リストを覚えれば解答できる問題になっており、語彙リストを覚えることが語彙学習のほぼ全てになっていると思われる。

本稿の実践の対象である総合日本語3（以下、総合3とする）は、総合教科書『中級へ行こう日本語の文型と表現 59』を中心に学習する、初中級レベルのクラスである。教科書の巻末には、「新しいことば」として、新出の語句が英語・中国語・韓国語の対訳を付して並べられたリストが付いており、課ごとの「語句クイズ」で語句の意味を問う問題が出るため、学生はそれを覚えてくることになっている。学生には「語句予習ノート」という冊子を渡してあり、語句の意味だけでなく、その語句を使った短文を作って書くよう指示しているが、実際には、短文を書いてくる学生は限られており、リストで語句の意味を覚えてくるだけの学生が多かった。つまり、多くの学生にとって語彙学習は、授業で説明を聞く以外、語彙リストを覚えるのがほとんど全てという状態であった。

1-2. 語彙リストの暗記のみの語彙学習の問題

語彙学習には確かに暗記に頼らざるを得ない面があるが、語彙リストの暗記のみが語彙

学習だとすることには、次のような問題がある。

第一に、語彙学習とは語彙リストにある日本語の語と訳語を覚えることだと思っている学習者は、それぞれの意味の範囲にずれがあることに気づかず、互いに1対1で対応していると錯覚することが多い。意味の範囲のずれに気付かなかった場合、誤用や語の使い残し（その語が使えることに気づかないこと）を起こす可能性がある。1対1対応していると錯覚することが、外国語の語彙学習における最大の問題だという指摘もある（今井・佐治, 2010）。第二に、語の意味を覚えてだけで、語がどのような形で、どのような語とともに使われるのかといった語の使い方を知らなければ、語を適切に使えないという問題がある。第三に、語彙リストの暗記による語彙学習は、1語1語をばらばらに覚えることになり、効率的でないという問題もある。そして、第四に、暗記という学習方法は、通常単語で、努力を強いられ、面白さを感じにくいという問題もある。

学生がこのように問題の多い学習方法で学んでいる状態を改善するため、教科書の「新しいことば」の問題として作成したのが、本稿の「ことばの使い方の問題」である。

なお、教科書の「新しいことば」の語句は、連語¹⁾を含んでいるが、それらの連語は「横になる」「目が覚める」など、一般にコロケーションと呼ばれる、語と語が結びついて一つの意味を表し、他の語と置き換えることができない固定的な連語であり、1語のように学習すべきものである。そこで、以下では、これらも語として扱うことにする。

2. 「ことばの使い方の問題」の目的

「ことばの使い方の問題」は、語彙リストを暗記するのが語彙学習だと考えている学生たちに、その方法の問題に気付かせ、その学習方法からの転換を促すため、次の3点を狙いとすることにした。

- 1) 日本語の語と訳語には意味のずれがあることがあり、訳語を覚えてだけでは適切に使えないことに気づかせる。
- 2) 共起する語や助詞、語が使用される際の語の形など、語彙を学習する際に注目すべき点に気づかせる。
- 3) どんな時使え、どんな時使えないかを考えることで、語の意味や使い方がわかることと、その面白さに気付かせる。

ただし、教科書を用いて指導する総合クラスでは、教科書の中の語が身につくようにすることも重要であり、それらの語を指導し、理解を図る必要がある。そこで、「ことばの使い方の問題」は、教科書の「新しいことば」の中で、上記の狙いに合い、かつ、指導する価値があると思われる語を出題語とした。そして、それらの語の理解を図ると同時に、上記の気づきを起こすことを目的とすることにした。

3. 問題の作成

3-1. 「ことばの使い方の問題」の概要

総合3のスケジュールには1課ごとに語彙指導の時間が設けられているが、問題には1

回に 20 分程度しか時間が取れないため、問題の分量は 1 課につき A4 1 枚程度にした。

問題形式は、気づかせたい点を次の 3 点に絞り、それに適したものを考えた。

- ① 日本語の語と訳語との間の意味のずれが存在する場合があること
- ② どのような語が共起するかに注目すべきこと
- ③ 動詞を学習する際には、助詞に注目し、一緒に覚えるようにすべきこと

①は、訳語から学生が正誤の判断を誤る可能性のある文を示すことで気づかせることができると考えられる。そこで、①の気づきのための問題形式として、文の正誤判断²⁾を選択した。そして、学生が取り組みやすい形式であることから、これを問題 1 とした。

②については、三好 (2011) において動詞と共起する語に注目させ、どのような語が共起するのか、そのカテゴリーを考えさせる指導の有効性が確認されている。また、共起する語について考えさせることで活発な授業実践が可能であったことも報告されている (三好, 2012)。そこで、動詞と共起する語を選択させ、そのカテゴリーを考えさせる問題とすることにし、問題 2 とした。

③については、学習項目と注目すべき点を明確に示すという意味で、動詞に下線を引き、助詞を () にした空所補充問題とし、問題 3 にした。

本稿末の資料に、例として第 7 課の「ことばの使い方の問題」を掲載した。

3-2. 問題の作成過程

1) 問題 1 文の正誤判断問題

問題 1 の中心的な狙いは、日本語の語と訳語との意味のずれに気づかせることである。意味のずれがある語は、教科書の語彙リストの訳語を見て、反対にその訳語の日本語訳を調べることや、訳語の例文を調べることで、見つけることができる。そのような語で、このレベルに適しており、使えるようにする価値があると思われる語を出題語とした。

また、この形式は、類義語との使い分けや語が使用される文体など、様々な項目について出題することが可能である。そのため、他の形式で出題するのが難しい項目は、問題 1 で出題した。さらに、「あいづちを打つ」のようなコロケーションについても、問題 1 で出題した。コロケーションの場合は共起する語が一つに決まってしまう (例:「あいづち」に対する「打つ」) ので、問題 2 の形式には相応しくないためである。

問題文の作成にあたっては、出題項目の理解を促すため、正しい場合と正しくない場合の違いが明確に理解できるような文を考えた。

2) 問題 2 共起する語句の選択問題

問題 2 は、三好 (2011) の CA 法の考え方に基づくものである。CA 法とは、例えば「失う」が {命/家族/財産} と共起することを示せば、「失う」は「非常に大切なもの」をなくす」という意味があると気付くように、動詞と共起する名詞のカテゴリーを考えさせることで、動詞の意味および動詞と共起する語がわかるようになるというものである。そこで、動詞を出題語とし、共起する名詞を選ぶ問題とした。ただし、たとえば「増やす」の問題で「本」を選択肢にすると「本を増やす」となり、これだけでは状況がわかりにくいので「図書館の本」を選択肢にするというように、場合により、名詞 1 語ではな

く、状況がわかるよう語を補った。

出題語となる動詞を決めると、その動詞がどのような語と結びつき、どのような連語を作るのか、そのカテゴリーを考え、それが明確になるよう選択肢を考えた。選択肢は、ninjal³⁾ 等によるコーパス情報を参考にし、学生にとって既知と思われる語句を選んだ。使えない例となる選択肢は、考えたカテゴリーが浮かび上がるようなものと考え、その語句と動詞が結びついてできる連語が web 上で使用されていないことを確認した。

3) 問題3 助詞の空所補充問題

学生にとって難しいと思われるものという観点から、「を」以外の助詞、または「送る」のように補語が二項以上になるものを中心に出题した。ただし、移動動詞の「を」は難しいと思われるため、取り上げるようにした。

問題作成にあたっては、より確実な理解を図るため、次のような点に注意した。

- ①教科書に出てくる意味・用法を確認する問題にする。教科書で、派生的な意味で使われている場合は、基本的な意味を確認する。必要性や難易度により、発展的な問題を入れる。
- ②出題語以外ではできる限り平易な語を用い、学習者のレベルにあった難易度にする。
- ③学習者の言語生活領域を想定し、学習者にとって有効な文脈を考え、問題を作る。
- ④自己の語感だけに頼らず、必ず web 上での使用・不使用を確認する。

4. クラスにおける使用

4-1. クラスでの使用時の様子

筆者が担当した授業と各クラスの授業記録および教師へのインタビュー（6で述べる）で知り得た範囲では、どのクラスでも学生はこの問題に熱心に取り組んでいたようである。正誤が明らかなクイズ形式になっているため、クラスでは学生が「できた」「間違えた」と一喜一憂しながら、楽しそうに取り組む様子が見られた。

筆者自身が第1課で初めてこの問題を指導した際は、学生は訳語と日本語の語との意味のずれに気付いておらず、想定どおり多くの間違いをし、学生自身驚いていた。しかし、第2課、第3課と問題を行うにつれ、間違いが少なくなった印象があった。訳語から考えると答えを誤ることがあると気づいたらしく、「これは、英語の訳だと使えるけれども、たぶん使えない」といった予想を語る学生もいた。問題3の助詞の問題も、印象ではあるが、次第に学生から正しい答えが出ることが増えたように感じられた。

4-2. クラスにおけるやりとり

クラスでは、問題をめぐり、学生と教師、あるいは学生同士で、様々なやりとりが行われ、授業記録にも、その報告が多くなされていた。次の二つの例は、授業を担当した教師が授業記録を元の後日そのやりとりを思い出し、筆者に報告したものである。

1) 問題 1 (文の正誤判断問題) の「手軽に」の問題をめぐるやりとり

【問題】 中国語には漢字があるから、中国人は漢字を手軽に覚えられる。()

【やりとり】 学生の答えは半々に分かれ、正解した学生も、理由はだれ一人説明できず、勘で答えただけのような感じだった。教師は考える手がかりとして、「食べられる・運べる・使える」は共起し、「考える・覚える・解ける」は共起しないことを説明し、対比させた。一人の学生から「考える・覚える・解ける」は共通して「上手に」が使えるのでは、という意見が出た。「上手に」の意味を誤解していると思われたので、教師が「上手に」について説明した。その後、別の学生から「手を使う」ものについて「手軽に」が使えるのではないかという意見が出た。その意見にクラス全体が納得した様子であった。

「手軽に」は、「ことばの使い方の問題」を初めて行った第 1 課の語だったため、多くの学生がこの問題を間違えていた。上記の例では、教師がカテゴリー化のための手がかりを与えることで、一人が使えない場合についての仮説を出し、その後別の学生が使える場合についての仮説を出すというふうに、学生による仮説検証が起きている。

2) 問題 2 の「乱れる」の問題でのやりとり

【問題】 _____ に入ることばを _____ から選んでください。
「乱れる」と一緒に使うことばは、どんなものがあるか、考えてみましょう。

_____	} が乱れる	*ルビは省略した

髪	人の列(line)	電車のダイヤ(diagram)	テレビの画面(screen)
(走ると) 呼吸	(地震で) ビル	ゴミ箱の中	

【やりとり】 どういう基準で選んだか、答えとともに理由を説明させたところ、ある学生が「人によってされたことかどうか」という基準で選んだと答え、その基準で「髪、人の列、呼吸、ゴミ箱の中」が「乱れる」と一緒に使えると言った。別の学生から「ニュースで電車のダイヤが乱れている」と聞いたことがあると述べ、また、地震でビルの中の物が散乱するという意味でビルも乱れるのではないか等の意見も出た。そのような話し合いの中で、「ゴミ箱は元々きれいなものではないから違う」という意見が出て、きれいなものがきれいではなくなることを「乱れる」と言うと思うという方向に話が進み、学生同士の話し合いで語句の選択基準が導き出せていた。ただ、「地震でビルが乱れる」を、ビルの中が散乱した状態になると解釈した学生が多く、「ビルが乱れる」も使えるのではないかという結論になったため、最後にその点だけ意味を確認した。

上記の例においては、教師のカテゴリー化を促す問いにより、学生が既有知識も使いながら、学生同士のやりとりによってカテゴリーの基準に近づいていることがわかる。しかし、「ビルが乱れる」の例では学生に誤解が生じ、教師が修正している。

4-3. クラスにおける使用のまとめ

問題を実施し、特に第1課において、間違いが多数であったことから、語彙リストを覚える学習方法が一般的であることが、改めて確認された。そして、上記の二つの例が示すように、この問題を用いた授業では、教師が適切に導くことにより、教師から教えられるのではなく、学生が自らカテゴリーを発見し理解していくことができることがわかった。

5. 学生アンケートにおける評価

5-1. 調査方法

最終の第10課の指導後に、承諾の取れた学生144名に対し「ことばの使い方の問題」についてのアンケート⁴⁾を行い、うち9名にはフォローアップインタビューも行った。

5-2. 結果

5-2-1. 問題による気づき

「ことばの使い方の問題」をして気づいたこと、わかったことを複数回答可として選択させた。結果は表1のとおりである。

c, d, eは半数以上が選択している。これらの点は、各問題

表1 「ことばの使い方の問題」をして気づいたこと

アンケート質問項目	人数 N = 144
a. 訳語を覚えてただけだと、使い方を間違えやすいこと	66 (45.8%)
b. 単語の意味は1つではないこと	77 (53.5%)
c. 日本語の単語と訳語の意味は時々ずれがあること	84 (58.3%)
d. 単語を勉強するとき助詞に注意して勉強すべきこと	95 (66.0%)
e. 単語を勉強するとき一緒に使う言葉に注意して勉強すべきこと	89 (61.8%)
f. 単語の勉強は思っていたより難しいこと	46 (31.9%)
g. 単語の勉強は面白いこと	35 (24.3%)
h. その他	1 (0.7%)

で中心的な狙いとしていた点であり、問題の意図が伝わりやすかったためだと思われる。四つの項目について半数以上が選択していること、1項目も選ばなかった者はいなかったことから、この問題の狙いである気づきは、どの学生にもある程度あったものと思われる。ただし、インタビューで、この数には、元々知っていたけれどもよりよくわかったという場合も含まれていることが確認された。また、aの選択率が50%以下と予想外に低かったのは、問題をする前から気づいていた者が多かったためではないかと推測される。

5-2-2. 各問題に対する評価

表2に各質問項目に対する点数の平均をまとめた。好意的評価項目である①③④⑤のいずれについても4以上の平均点であり、どの問題も好意的に受け入れられていたことがわかった。一方、②は各問題間で統計上有意差が認められ⁵⁾、問題3、問題1、問題2の順に難しいと感じられたことがわかった。

次に、各問題について肯定的評価項目、否定的評価項目を、複数選択可として答えさせた結果を図1・図2に示す。肯定的評価項目における選択数のほうが、否定的評価項目の選択数より圧倒的に多く、ここでも好意的に評価されていたことが明らかになった。否定的評価では「説明を聞いてもわからないことがある」が多く、説明の難しさが示唆された。

各問題に対する学生の評価をまとめると、問題1は「単語の使い方がわか

る」「日本語の言葉と訳語との違いがわかる」「教科書以外の例文を見ることができる」点が長所であり、短所として「説明を聞いてもわからないことがある」点があることがわかった。問題2は比較的易しいと感じられたようで、インタビューでも漢字圏の学生から、「簡単だったので『この問題をたくさんやりたいと思った』の点を低くした」という声があった。このような否定的評価の一方で、「単語の意味がよくわかる」「考えるのが面白い」については最も多く、それらの点が問題2の長所だといえるであろう。問題3は多くの学生が苦手としている助詞の問題であることから、難しいが、役に立ち、必要性が高いと評価されていた。インタビューでも、この評価を裏付ける意見が複数あった。

表2 各問題に対する5段階評価の平均値

	問題1	問題2	問題3
①役に立つ、いい問題だと思う。	4.45	4.43	4.49
②この問題は難しかった。	3.30	3.09	3.60
③この問題で勉強するのは面白かった。	4.12	4.06	4.01
④問題で勉強したことは、よく理解できた。	4.16	4.20	4.13
⑤この問題をたくさんやりたいと思った。	4.23	4.09	4.29

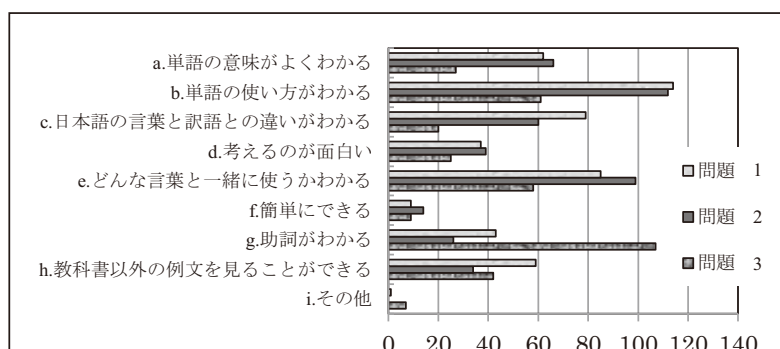


図1 肯定的評価項目の選択数

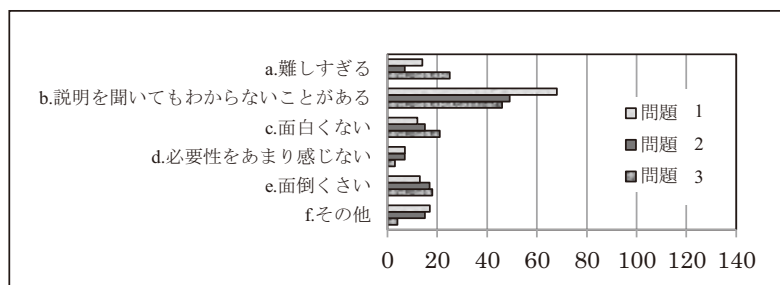


図2 否定的評価項目の選択数

6. 教師へのインタビューにおける評価

指導にあたった教師 10 名に対し、学期終了後に、問題を使用した感想や授業の様子、問題の長所や改善すべき点などを尋ねた。全般的な評価は、10 名全員について好意的であった。問題を使用する利点として、大別すると次の 3 点の指摘があった。

1) 語彙リストを覚えるだけの学習方法からの転換が図れる。

従来は訳語を覚えるだけの状態で、そこからの転換を促すことが、この問題を使用する利点とする声が複数あった。教師 A は、この問題の長所を問われ、「気づき。語彙を勉強する時には、ただ語彙だけの訳を覚えるだけじゃだめなんだってことに、学生が気づいてくれること」と述べた。また中国人の教師 B は「中国では、ことばは辞書を調べて覚える、それしかない」とした上で、この問題をする、語句を「自分のものとして使うという点で考えると、すごくよかった」と述べた。その他、語の共起関係の重要性への気づきを、この問題の最大の利点とする声もあった。

2) 問題形式なので面白く、学生が楽しく取り組める。

インタビューで授業の様子を尋ねたところ、いずれの教師も楽しそうだったと報告した。教師 C は「育つ」の指導時の様子を、「「これ使いますか」って聞くと、いろいろ間違いを……、『わかんないです』『なんですか』、みたいな、『「ひげ」んんん?』みたいな、考え込んで、はい。そういうやり方のときに、すごく楽しそうでした」と話した。

3) 指導すべき点が明確になり指導しやすくなった。

この問題により指導がしやすくなったという声も多数聞かれた。教師 C は、今までは何を指導するかも勘に頼り恣意的に選んでいたが、問題があれば、それに沿って指導すればよいので指導しやすかったと述べていた。

インタビューでは、この問題を使って指導したことで、教師自身にも語彙指導についての気づきがあったことが報告された。例えば、教師 D は、次のように、これまでは語彙指導を重視していなかったが、問題をして意識が変わったと述べた。

意味を調べてきて、意味がわかれば、この問題が解けると思っていました。それが結構予習はしてきているのに、結構間違えていて、どうしてかっていう質問を受けたときに、あ、こういうところを授業で取り上げなくちゃいけなかったんだっていうのが、初めてわかりました。……（中略）……（語彙は覚えるしかないの）あまり授業で教師が時間をとってやるものではないっていう、おごりというか、意識があったので、私自身が語彙の指導を重要視していなかったし、どう指導すればいいかもわかってませんでした。……（中略）……覚えるものっていう意識がなくなった。

同様の報告が、教師 D のほかにも複数あった。また、学生にとってどこが難しいのかわかったという声が多数あったほか、語の共起関係を教える必要性に気づいたという声もあった。さらに、学生が納得できる説明をするには、十分な準備が必要なのに気づいたという声も複数聞かれた。語彙指導の前にコーパスを調べたことはなかったが、初めて使って準備したという報告もあった。このように「ことばの使い方の問題」は、学生のみでな

く、教師にも語彙の学習と指導についての気づきを起こすものであることがわかった。

一方、検討すべき点の指摘もあった。次の4点にまとめられる。

- ①授業での時間の配分が難しく、他の指導ができなくなることがあった。
- ②授業で理解できていたのに後のクイズで間違えていた。記憶に残す工夫が必要である。
- ③この問題だけでは、使えるところまでは行けないので、そのための指導が必要である。
- ④語彙学習についての気づきを起こすところまでなので、続きの指導が必要である。

7. まとめと今後の課題

アンケート等の結果から、狙いとしていた気づきは、ある程度起こすことができたことがわかった。学生および教師の評価も好意的であった。客観的な効果の測定はできていないものの、学習方法の転換のための気づきと、教科書の語句の十分な理解という目的は、ある程度達成できたといえるのではないかとと思われる。

今後は、引き続き現場で使用しながら改善を図り、より良いものにしていきたいと考えている。検討、改善すべき点としては、6で教師が検討すべき点として挙げた4点が、それに当たる。4点のいずれもが大きな課題であるが、語彙の学習方法を身に付けさせるといふ本来の目的を考えれば、④の点は特に重要である。初中級というレベルでは、学生自身が日本語のコーパスから必要な情報を得ることは困難であり、かつ、現状ではこのレベルの学生に必要な情報が過不足なく入った辞書もない。そのため、例えば、辞書の記述の見方を教えるなど、この状況の中で学生が必要な情報を得るための指導が必要であり、その指導について検討していかなければならないであろう。

また、教師が適切に導けば学生による活発な仮説検証が起こる一方で、「説明を聞いてもわからないことがある」という意見が多く、説明の難しさが明らかになった。問題のみでなく、問題を使っていかに教えるかが重要であり、その検討が必要だと思われる。

注

- 1) 連語は統一した定義がない。本稿では、複数の語が連なり一つの意味を表すものとする。
- 2) a, bのうち正しい文の選択問題にした課もあったが、その形式では一方の文の正誤がわかればもう一方の正誤もわかるため、1文ずつ正誤を答えさせる形式に固定した。
- 3) NINJAL-LWP for TWC <http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>
- 4) 日本語版を作成し、それを翻訳して英語版、中国語簡体字版、中国語繁体字版を作った。
- 5) 一要因の分散分析を行い、 $F(2,284)=13.700$ $p<.01$ で有意差が認められた。各問題間の平均値の差の検定では、全ての問題間において、5%水準で有意であった。

参考文献

- 今井むつみ・佐治伸郎（2010）「外国語学習研究への認知心理学の貢献—語意と語彙の学習の本質をめぐって」市川伸一（編）『発達と学習』北大路書房、283-309
- 三好裕子（2011）「共起表現による日本語中級動詞の指導方法の検討—動詞と共起する語のカテゴリー化を促す指導の有効性とその検証—」『日本語教育』150号、101-115
- 三好裕子（2012）「共起語のカテゴリー化による日本語中級動詞の指導—クラスにおける試行的実践—」『留学生教育』17号、141-150

資料 第7課の「ことばの使い方の問題」

総合日本語3
『中級へ行こう』第7課

＜ことばの使い方の問題＞ ～考えてみよう？～

1. _____のことばの使い方が正しいと思うものに○、間違っていると思うものに×をつけましょう。

どうしてそう思いますか、話してください。

- ① a 明日から新しい課を勉強するので、前もってことばの意味を調べておいた。()
b ルームメイトは帰りが遅いので、前もって映画館を食べた。()
- ② a 政府は若者に「選挙に参加しよう」と呼びかけている。()
b 両親は、いつも私に「よく勉強しなさい」と呼びかけている。()
- ③ a 地球温暖化が進んでいる。()
b 地球温暖化が増えている。()

* 「温暖化」「砂漠化」のように、「化」がつくことばを他に知っていますか。

2. _____に入ることばを [] から選んでください。

「守る」と一緒に使うことばは、他にどんなものがあるか、考えてみましょう。

_____ } を 守る

地球 自然 子ども (進んでいるレストランで) 席 冷蔵庫で 魚
約束 時間

3. _____のことばに気をつけて、() に、ひらがなを1つ入れましょう。

- ① 姉 ()、昨日かわいいうちの赤ちゃん () 生まれた。
- ② ユニクロは、人々 () 「いらない服をリサイクルしてほしい」 () 呼びかけている。
- ③ 子供 () 交通事故 () () 守るために、町の人たちがボランティアで活動している。

謝辞

本教材は2016年度春学期の総合日本語3において、非常勤インストラクター7名（青木優子・安藤博子・伊能裕晃・加藤志保・金英周・野口佐美・藤森景子、敬称略）の先生方の協力を得て作成しました。また、その他の先生方にも、指導に当たっていただくとともに調査へのご協力をいただきました。皆様のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

（みよし ゆうこ，早稲田大学日本語教育研究センター）